

心情読解プログラム「人の心を想像し、自分の生き方を考える」

キット04：導入読み上げ原稿＋展開・まとめ対話例台本（全7時間分）

- 著者：秋元進吾
 - 対象の目安：小学校高学年～中学生（塾・家庭学習・自由授業向け）
 - 使い方：
 - **導入原稿**は、指導者（先生・保護者）がそのまま声に出して読める完全原稿です（各5分）。
 - **展開・まとめ台本**は、発問のタイミングと学習者とのやり取りの例を示した進行台本です（展開30分・まとめ10分）。学習者の答えの例はあくまで一例なので、実際の反応に合わせて進めてください。
-

第1部：導入読み上げ原稿（各時5分）

第1時『ごんぎつね』導入原稿

「みなさん、誰かに“ありがとう”を伝えたかったのに、うまく伝わらなかったことってありますか？ 例えば、手伝ってあげたのに気づいてもらえなかったり、勇気を出して声をかけたのに相手が怒ってしまったり。

今日の物語『ごんぎつね』は、いたずら好きのキツネが人を困らせてしまったあと、“なんとか償いたい”と思う場面から始まります。でも、その気持ちは相手にちゃんと届くでしょうか。ごんの心を、みんなで一緒にのぞいてみましょう。」

第2時『大造じいさんとガン』導入原稿

「みなさんには“ライバル”と呼べる人はいますか？ 勉強や運動で『あの人には負けたくない！』と思う相手です。でも時には、その人を『すごいな、かなわないな』と尊敬する気持ちになることもありますか？

今日読む『大造じいさんとガン』には、そんな不思議な気持ちの変化が出てきます。長年戦ってきた猟師と、一羽の賢いガン。敵どうしなのに、ある瞬間に心が動きます。なぜそんな気持ちになったのか、一緒に考えてみましょう。」

第3時『注文の多い料理店』導入原稿

「山や森に探検に行ったことのある人？最初はワクワクしていたのに、だんだん心細くなったり怖くなったりしたことはありますか？明るいうちは楽しいけど、夕方になると急に不安になる・・・そんな経験、きっとあると思います。」

今日の物語『注文の多い料理店』に登場する二人の紳士も、最初は自信满满で冒険を楽しんでいました。けれど、進むうちに次々と“注文”が増えていきます。彼らの気持ちはどう変わっていったのでしょうか。ワクワクから恐怖へ移っていく心の流れを、一緒に追いかけてみましょう。」

第4時『雪女』導入原稿

「みなさんは友だちや家族と“約束”をしたことがありますか？ちゃんと守れたときはどんな気持ちでしたか？守れなかったときは？」

今日読む『雪女』は、少し怖くて、でも人間らしい気持ちが描かれているお話です。ある男が雪女と出会い、“このことは誰にも言うな”と約束をします。長い年月がたち、その約束が破られたとき、雪女はどうしたのでしょうか。信じたい心と裏切られた悲しみ。私たちも想像しながら読んでいきましょう。」

第5時『走れメロス』（前半）導入原稿

「みんなは、大切な友だちに“全部を任せるよ”って言ったことはありますか？逆に、友だちから“君を信じてるよ”って言われたら、どんな気持ちになりますか？」

今日の物語『走れメロス』は、友情と信頼が大きなテーマです。主人公メロスは、王に捕らえられたとき、友だちを人質にしてまで約束をします。なぜそんな選択をしたのでしょうか。メロスの心を一緒に考えていきましょう。」

第6時『走れメロス』（後半）導入原稿

「みなさんは途中で『もう無理だ・・・』と思ったけれど、最後までやりぬいた経験はありますか？マラソンを走りきったり、苦手な練習を続けたり・・・。」

物語の後半で、メロスは命をかけて走り続けます。何度も『もうだめだ』と思いながら、また立ち上がります。なぜメロスはあきらめなかったのでしょうか。そして、友と再会したとき、二人はどんな気持ちだったのでしょうか。一緒に考えていきましょう。」

第7時 まとめ導入原稿

「これまでにいろいろな物語を読んできましたね。 - ごん：伝えたい気持ちが伝わらなかった - 大造じいさん：敵への敬意 - 紳士たち：恐怖 - 雪女：信じたい心と裏切り - メロス：友情と信頼

どの人物の気持ちに、一番心を動かされましたか？今日はそれを振り返って、自分ならどうするかを考えていきます。物語を読むことは、人の心を想像する練習です。最後に、自分の生活に結びつけて考えてみましょう。」

第2部：展開・まとめ対話例台本（各時：展開30分＋まとめ10分）

※「学習者」の発言は反応の一例です。実際の答えを受け止めながら進めてください。

第1時『ごんぎつね』

展開（30分）

指導者：「それでは、ごんが栗を届ける場面を読みましょう。」（学習者音読）指導者：「兵十の気持ちはどうだったかな？」学習者：「最初はうれしそう。でも・・・ごんだと気づかなくて怒った。」指導者：「そうだね。じゃあ、ごんの気持ちは？」学習者：「喜んでもらえると思ったのに、伝わらなかった。」→板書に整理。ワークシート記入。

まとめ（10分）

指導者：「ごんの気持ちは兵十に伝わったと思う？伝わらなかった？」数名発表後、指導者のまとめ：「ごんの気持ちは届かなかったかもしれない。でも“伝えたい”という思いは確かにあった。ここが大切だね。」

第2時『大造じいさんとガン』

展開（30分）

音読。指導者：「大造じいさんは残雪を撃てば勝ちだったのに、なぜ撃たなかったのだろう？」学習者の意見→「かわいそうだから」「すごいと思ったから」。指導者：「大造じいさんの心に“敬意”が生まれたんだね。」→板書。ワークシート記入。

まとめ（10分）

指導者：「敵なのに尊敬する・・・そんなこともある。みんなもライバルにそんな気持ちを持ったことがある？」学習者が発表→「運動会で負けたけどすごいと思った」。指導者のまとめ：「相手の気持ちを考えることは、自分を成長させることにもつながるね。」

第3時『注文の多い料理店』

展開 (30分)

音読。指導者：「注文が増えていくと、紳士たちの気持ちはどう変わった？」 学習者：「最初は自信满满 → 少し不安 → だんだん怖い」 指導者：「心の変化を“流れ”で見るとよく分かるね。」 → 板書。ワークシート記入。

まとめ (10分)

指導者：「みんなは、不安や恐怖を感じたときどうする？ 立ち止まる？ 進む？」 学習者数名が発表。指導者のまとめ：「恐怖は人を止めることもあるし、気をつけさせる力にもなる。紳士たちの心を想像して、自分の経験ともつなげてみよう。」

第4時『雪女』

展開 (30分)

音読。指導者：「男はなぜ約束を破ってしまったのかな？」 学習者：「忘れちゃったから」「奥さんを信じすぎたから」。指導者：「雪女はなぜ去ったの？」 学習者：「裏切られて悲しかった」「怒ったから」。 → 板書。ワークシート記入。

まとめ (10分)

指導者：「約束を守ることと、守れなかったときの相手の気持ち。みんなならどうする？」 数名発表。指導者のまとめ：「約束には人と人をつなぐ力がある。雪女の気持ちを想像すると、その大切さが分かるね。」

第5時『走れメロス』(前半)

展開 (30分)

音読 (王に捕らえられる場面)。指導者：「なぜメロスは友を人質にしたんだろう？」 学習者：「信頼していたから」「自分を試すため」。指導者：「セリヌンティウスはどんな気持ちだった？」 学習者：「怖いけど信じていた。」 → 板書。ワークシート記入。

まとめ (10分)

指導者：「友情って何だろう？ 信じるってどういうこと？」 学習者の意見 → 指導者のまとめ：「人を信じる勇氣、信じてもらえるうれしさ。この物語はそこから始まっているんだね。」

第6時『走れメロス』(後半)

展開 (30分)

音読（走る場面～再会）。指導者：「なぜメロス是一直走り続けられたの？」 学習者：「友を裏切れないから」「信じられていたから」。指導者：「二人が再会したときの気持ちは？」 学習者：「うれしい」「信じ合えてよかった」。→ 板書。ワークシート記入。

まとめ（10分）

指導者：「メロスとセリヌンティウスの友情を、自分の友達との関係に当てはめるとどう思う？」 学習者発表。指導者のまとめ：「友情や信頼は、人を最後まで動かす力になるんだね。」

第7時 まとめ

展開（30分）

指導者：「5つの物語の登場人物の心情を振り返ろう。」 板書に並べる（ごん・大造じいさん・紳士・雪女・メロス）。発問：「一番心を動かされた人物は誰？なぜ？」 学習者：ワークシート記入 → 発表。

まとめ（10分）

指導者のまとめ：「物語を読むことは、人の心を想像すること。その力は、友だちや家族と過ごすときにも大切です。これからも、本を読むときに“この人はどんな気持ちかな”と考えてみましょう。」

著者：秋元進吾